

歯科における

外傷

骨折編



鎌倉市歯科医師会

又吉 誉章

部位の知覚異常が出現することもあります。

② 上顎骨骨折では、隣接する骨の併発骨折を引き起こす場合が多くあるので、鼻出血や鼻閉感、物が二重に見えるなどの眼症状を認めることがあります。また、目の少し下から出ている神経に障害が起きると、頬の知覚異常が出現することもあります。

受傷後は

早く受診を

● 検査・診断として、問診・視診・触診で骨折箇所の推定を行い、X線写真やCT画像により正確な診断を行います。

● 治療は、正しい咬み合わせが得られるように骨を戻してプレート固定の手術を行い、歯にワイヤーやゴムなどをかけて上下顎を固定します。咬み合わせのことまで考えることが重要で、これが疎かになると、上手く咬めなくなり、さらなる障害が起きてしまいます。

ほとんどの顔面骨骨折で緊急手術は必要ではなく、10日以内に手術を行えば問題はないと言われていますが、受傷後は、なるべく早く歯科・口腔外科を受診してください。

日本口腔外科学会HP参照

(又吉歯科医院)

骨折の種類と原因

日々診療をしていると、急患で外傷の方が来院されることがあります。外傷とは、外的要因による組織または臓器の損傷の総称です。受傷した本人はもちろん、ご家族も突然のことに動揺されていることが多くあります。起こった時にどうすれば良いのかを、前もって知っておくことはとても重要です。今回は、外傷の中でも重症である骨折についてお話をします。

● 上顎骨の骨折は周囲の頬骨や眼窩底や鼻骨の骨折を伴うことが多いです。下顎骨の骨折は、オトガイ部(アゴの先)下顎角部(エラの部位)にかけての範囲と、下顎角部下顎関節突起(耳の前)にかけての範囲があります。

● 骨折の種類として、

外力による骨折を外傷性骨折と言い、炎症や嚢胞、腫瘍などで骨が破壊され、小さな力で骨折するのを病的骨折と言います。力が加わった場所起きた骨折を骨折を直達骨折、離れた場所に起きた骨折を介達骨折と言い、下顎骨を強打した場合にその部位と反対の顎関節突起に起こることが多いです。

● 骨折の種類として、

加じています。特徴的な症状

● 症状

内出血や腫れ、変形、痛みなどは、どの顔面骨折でも認められます。この他に特徴的な症状として、

① 下顎骨骨折では咬み合わせの異常が起こります。下顎骨には様々な筋肉が付着しており、折れた骨が筋肉に引っ張られることにより様々な方向に向かいます。これにより咬み合わせが合わなくなるのです。受傷後すぐではなく数日後に咬み合わせの異常で骨折に気づくこともあります。また、顎関節に近い部位が骨折すると、口の開閉が困難になります。下顎骨の中には、オトガイ(下唇の感覚をつかさどる神経が走行している)ので、骨折によりこの

(又吉歯科医院)